

My 画像認識人工知能の うまい育て方

ご購入はこちら

安田 国裕

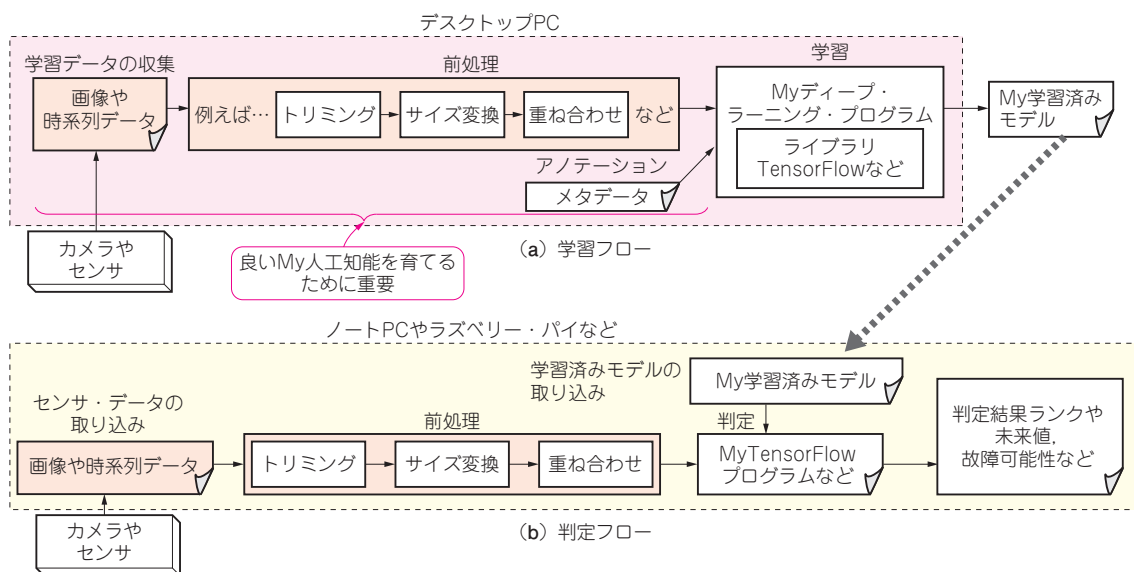


図1 My 人工知能をできるだけ効率よく精度よく育てるには学習データが重要

My 人工知能のよしあしを決めるのは「学習データ」

- 材料が悪いとおいしい料理を作ることができない

図1に機械学習の実行過程を大まかに示します。

問題設定によってどんな人工知能を作って問題を解決するか(料理を作るか)が決まったら、次に学習用



写真1 育てるMy人工知能の画像認識ターゲット「うまい棒」

のデータ収集や前処理を行います。それぞれのプロセスを料理に例えると、データ収集とは「素材集め」、前処理とは「下ごしらえ」に相当します。

収集したデータの品質が悪いとMy人工知能の学習に致命的な影響を与える可能性があります。非常に重要なプロセスです。いくら料理の腕が良くても、悪い素材からは、まずい料理しかできません。

前処理は学習プログラムの中に組み込んで実行することで、前のプロセスに戻って学習プロセスを繰り返す場合に、効率的にサイクルを回せます。料理も同じように、下ごしらえの道具がそろっていると楽です。

My 画像認識人工知能の実験環境

- 認識ターゲット

今回、画像認識のターゲットとして安価に手に入りやすいお菓子「うまい棒」を選びました。中身(外袋ではなく)の画像を見て、種類を判定する分類問題を扱